

小学校教科用図書選定に必要な資料（2019年度作成）

# — 小 学 校 —

「選定に必要な資料」の活用について

国 語	1
書 写	9
社 会	19
地図(社会)	27
算 数	33
理 科	43
生 活	53
音 楽	65
図画工作	71
家 庭	77
保 健	83
英 語	93
道 徳	105
参考資料	117

「選定に必要な資料」は、いずれの種目（教科）においても、次の4つから構成されている。

- ① 観 点 の 内 容：「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を示したもの
- ② 調 査 方 法：カウントした内容・項目について説明したもの
- ③ 調 査 結 果：「観点のための研究調査事項」について○印を入れて示したもの
- ④ 選定のための参考：各発行者の特長を総合的に文章表記したもの

滋賀県教育委員会

# 小学校教科用図書「選定に必要な資料」の活用について

滋賀県教育委員会

## 1 「選定に必要な資料」作成にあたっての基本的な考え方

- (1) 「選定に必要な資料」を作成するにあたっては、文部科学省の指導通知に基づき、各採択権者において、より参考となるよう内容の一層の工夫・充実を図った。
- (2) 研究調査については、種目（教科）ごとに学習指導要領に示された目標を達成するための観点を中心として、「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を設定し、客観性を重視した。
- (3) 「観点のための研究調査事項」については、種目（教科）ごとに各発行者の特長を○印で示した「調査結果」を作成した。他の教科書との比較の上、その教科書で重きを置いている研究調査事項の3つに○印を付した。
- (4) 「選定のための参考」については、「調査結果」を基に種目（教科）ごとに特長を総合的に文章表記した。

## 2 「選定に必要な資料」活用にあたっての留意事項

- (1) 「選定のための参考」を熟読し、調査研究に活用すること。
- (2) 「調査結果」の○印のみに注目することなく、総合的に研究調査をすること。
  - ① 「調査結果」の○印と併せて、教科書での取扱い・取り上げ方についても、十分調査研究をすること。
  - ② 「調査結果」の元資料として、観点のための研究調査事項について、項目数やページ数をカウントして作成した「調査結果（数値）」を、参考までに資料の最後に添付している。
- (3) 「研究調査事項」については、「指導についての留意事項」で示した内容をふまえ研究調査に活用すること。
- (4) 「調査方法」については、種目（教科）ごとに示しているので、「調査結果」を見る際の参考にすること。

# 国語

東京書籍

学校図書

教育出版

光村図書

## 観点の内容

### 国語科 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な言語文化や言葉の特徴やきまり、使い方に関する内容を取り上げている箇所数</li> <li>・情報の扱い方に関する内容を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の言語活動の中にある言葉の特徴やきまりなどに気付くことや、学習したことを日常の場面に生かすことを意識しながら学習できるように留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すこと・聞くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数</li> <li>・書くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数</li> <li>・読むことの力を高めるための文章の種類や内容について、文学的文章、説明的文章、詩・短歌・俳句等の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すこと・聞くことを一体的にとらえ、説明、発表、対話、討論などの言語活動を通して、目的に応じて効果的に話をしたり、相手の意図を捉えながら聞いたりすることができる言語能力を意図的、計画的に育成する。 第1学年及び第2学年は年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年は年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年は年間25単位時間程度を配当する。</li> <li>・説明、記録、手紙、感想などを書くことや、意見発表のための文章や資料を作成するなどの言語活動を通して、相手や目的に応じ、条件に合わせて効果的な文章を書くことができる言語能力を意図的、計画的に育成する。 第1学年及び第2学年は年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年は年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年は年間55単位時間程度を配当する。</li> <li>・多様な文章を取り上げ、内容や要旨を捉えながら読む、調べるためによむ、音読や朗読をする活動を通して、目的に応じて文章の内容を的確に読みとることのできる言語能力を意図的、計画的に育成する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の言語活動例に関わる内容の数</li> <li>・目的に応じた読書への誘いを内容とする学習課題の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような言語活動を通して資質・能力を育成するか明確にする。</li> <li>・児童の読書意欲を高め、日常生活における読書活動につながるよう留意する。</li> </ul>

調査方法

種目名【 国語 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な言語文化を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 昔話、俳句、短歌、古文、漢文等</li> <li>・ 言葉の特徴やきまり、使い方に関する内容を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 話し言葉と書き言葉、ローマ字、主語と述語、修飾語、敬体と常体、比喩、音読や朗読等</li> <li>・ 情報の扱い方に関する内容を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 関係、整理の仕方、手段等</li> </ul>
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話すこと・聞くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数について調査を行った。 例) 感想を述べる、少人数で話し合う、調べたことを話す・聞く、グループや学級で話し合う、自分の考えを話す・聞く等</li> <li>・ 書くことを学習課題として取り上げたり、学習活動を学習過程の中に示したりしている箇所数について調査を行った。 例) 経験したことを書く、記録する、伝えたいことを書く、想像したことを書く、考えたことを書く等</li> <li>・ 読むことの力を高めるための文章の種類や内容について、調査を行った。 例) 文学的文章、説明的文章、詩・短歌・俳句等</li> </ul>
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領の言語活動例に関わる内容の数について調査を行った。 例) 他教科等の学習や学校の教育活動全体と関連させる活動</li> <li>・ 目的に応じた読書への誘いを内容とする学習課題の箇所数について調査を行った。 例) 本、新聞、雑誌、調べるための資料等</li> </ul>

# 調査結果 国語

		観点A			観点B			観点C			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等			
研究調査事項	発行社	伝 上 げ て い る 箇 所 数	言 語 の 特 徴 や ま り 、 使 い 方 に 関 する 内 容 を 取 り 上 げ て い る 箇 所 数	情 報 の 扱 い 方 に 関 する 内 容 を 取 り 上 げ て い る 箇 所 数	話 す こ と ・ 聞 く こ と を 学 習 し た り し て い る 箇 所 数	読 む こ と を 学 習 し た り し て い る 箇 所 数	書 き 上 げ た り し て い る 箇 所 数	明 確 な 文 章 、 詩 ・ 短 歌 ・ 俳 句 の 数	読 む こ と の 種 類 や 内 容 に 関 する 文 章 の 数	学 習 指 導 要 領 の 言 語 活 動 に 関 する 内 容 の 数	目 的 に 応 じ た 読 書 へ の 誘 い を 内 容 と す る 学 習 課 題 の 箇 所 数
		東京書籍	1年生		○	○					
2年生			○	○					○		
3年生			○						○		
4年生			○	○		○					
5年生			○				○				
6年生			○						○		
学校図書	1年生			○	○	○					
	2年生	○		○				○			
	3年生				○	○				○	
	4年生					○		○	○	○	
	5年生		○						○	○	
	6年生		○				○		○		
教育出版	1年生	○	○					○			
	2年生				○	○				○	
	3年生		○		○	○					
	4年生			○		○				○	
	5年生	○		○						○	
	6年生			○	○	○					
光村図書	1年生		○					○			○
	2年生	○					○				○
	3年生	○		○							○
	4年生	○		○							○
	5年生	○		○	○						○
	6年生	○		○							○

種目名 国語	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の教科書には、声のものさしが表示されている（最初の単元・巻末資料）。</li> <li>・1年生の促音・拗音等では、記号や動作で発声を示している。</li> <li>・各単元の終わりに「ことば」や「漢字」の項目が取り上げられている。</li> <li>・各巻の巻末には、「言葉の広場」を設定している。</li> <li>・単元の導入のページ冒頭には、既習の「言葉の力」が書かれており、他学年の学びのつながりを意識できるようになっている。</li> <li>・単元の中で特に押さえておきたい知識・技能を取り上げる「おさえる」を新設している。</li> <li>・3年以上のはじめに、書くことと関連させて、「情報の扱い方」に関する指導事項が位置付けられている。</li> <li>・3・4年に限り、単元末に付録として「情報の扱い方」について見開き2ページにまとめてあり、必要に応じて使えるようになっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合いの題材が地域に広がる題材になっている。</li> <li>・「つかむ」で学習のねらいを理解し、見通しがもてるようになっている。</li> <li>・高学年の題材では、問題意識をもたせ、学習のねらいを明確にもたせている。</li> <li>・全学年で「生活の中の言葉」のページが設定してあり、どのように話せばコミュニケーションがうまくとれるかを考えることができる。</li> <li>・様々なプレゼンテーションの方法を紹介していて、表現に力を入れている。</li> <li>・書く活動における情報の集め方の例が充実しており、参考にしながら学習を進めることができる。</li> <li>・他教科等への生かし方の例が掲載されていて、学習したことを他に生かす参考として有効である。</li> <li>・書いたものをよりよくするためにどうすればいいかを児童に考えさせる投げかけがあり、見直しや推敲を促す一助とすることができる。</li> <li>・文学的文章や説明的文章の単元のはじめに、その単元でどんな力をつけるのかが1ページを使って整理してあり、児童にも分かりやすい構成となっている。</li> <li>・上学年の説明的文章では、環境・情報・将来のこと・福祉など、児童の身近なことにかかわる文章が取り上げられており、興味をもちやすい。</li> <li>・単元の「問い」を解決するための言語活動、学習の見通しが表示されている。</li> <li>・考えを形成する手立てとして、「ノートの使い方」がある。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の力を他教科や日常生活に生かす観点が振り返りで示されている。</li> <li>・各単元の終わりに、2～4冊程度の関連作品を表紙を載せて紹介している。本の題名も示してある。</li> <li>・全学年で、「作家の言葉」を受けた形で「〇年生の本だな」として読書紹介のページを設けており、各図書の紹介文も充実している。</li> </ul>	

種目名 国語	発行者名	学校図書株式会社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生以上は「季節のたより」で、年4か所、四季に応じた言葉を取り上げている。4年生以上は季節の言葉を用いた俳句等も紹介されている。</li> <li>・ 「言葉のきまり」「言葉のいずみ」「レッスン」など、言葉について取り上げているページが設定されている。</li> <li>・ 3年生以上は、「言葉をつないで文を作ろう」を6か所(2年生は5か所)設定されており、全学年の配当漢字が含まれた単語を使い、テーマに沿って短文を作る活動が取り入れられている。</li> <li>・ 巻末に「言葉の部屋」がある。</li> <li>・ 年度当初に「言葉でつながる」という学級づくりに役立つ話合いの活動が設定されている。</li> <li>・ 「情報の扱い方」については、3年生以上において、論理的思考力と創造的思考力にかかわる教材文を見開き2ページずつ掲載している。</li> <li>・ 「視点を変える」と題した情報の見方や情報に対する考え方に関する指導事項を3年生以上で年間見開き2ページずつ配置している。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話合いの題材が学校の中のものになっている。</li> <li>・ 話合いの形態について5年生は「討論会」、6年生は「パネルディスカッション」というように、いろいろな方法を示している。</li> <li>・ 他の領域と関連付けることなく、「話す・聞く」だけで単元を構成しているものが多い。</li> <li>・ 書くことの「まとめ方」の例として、イメージマップ、構成図、論の進め方、図などの例が多く示してあり、分かりやすい。</li> <li>・ 全体的に写真や図、資料が豊富である。「書くレッスン」のコーナーが配置されており、書く際に参考にすることができる。</li> <li>・ 読む領域において、「視点を変えて読む」など発展的活動についても取り上げている。</li> <li>・ 巻末に「資料」として物語文や説明文が掲載されており、学習をさらに深めることができる。</li> <li>・ 「てびき」の説明に読むための目的や、読み進めていく手順を示している。</li> <li>・ 説明的文章では、4年生以上の下巻冒頭に読み比べの教材を設定している。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高学年には、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域を有機的に関連させた複合単元が設定されている。</li> <li>・ 各学年「読書の部屋」として紹介文付きで読書案内をし、3年生以上には、その後に読書記録について系統的に配列している。</li> <li>・ 各巻末に2・3冊の関連作品を載せている。</li> </ul>	



種目名 国語	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙を増やすような「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」の項目が設定されている。</li> <li>・「漢字広場」を学年に6か所設けている。(1年生は4か所)</li> <li>・巻末の付録として、「言葉の木」が掲載されている。</li> <li>・「情報の扱い方」に関する指導事項を章立てすることせず、教材文を指導する中で、単元末に指導のポイントとしておさえている。</li> <li>・付箋やカード、様々な思考ツール等を使って、考えを分類・整理したり、構成したりする学習を数多く取り入れている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の領域と関連付けている。「書く」「読む」と関連付けた「話す・聞く」の単元がある。</li> <li>・高学年では、「『うれしさ』って何?」というような哲学対話や、「地域防災について考えよう」など、話合いの題材が多彩である。</li> <li>・児童が書く活動を行う際に、参考にできるようなテーマの例が多い。</li> <li>・学習活動の流れが丁寧に示されている。</li> <li>・第4学年上巻では、短い物語を作る単元が配置されているなど、新しいジャンルの学習活動もあり、幅広い活動が期待できる。</li> <li>・読むことの単元において、学習活動の流れを示しているページでは、予想される児童の意見例を取り上げ、実際の活動をイメージしやすくする工夫が見られる。</li> <li>・巻末の付録で、本教材の理解の助けとなるような資料の掲載がある。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各巻冒頭に「〇年生で学ぶこと」、終わりに「学ぶ時に使う言葉」という学習を整理したページがあり、他教科での活用が期待できる。</li> <li>・各単元末に、2. 3冊の関連作品を示し、特に推薦する作品には紹介文をつけている。</li> <li>・全学年、上下巻末にまとめて「〇年生で読みたい本」として、ジャンルやテーマ別に紹介文付きの読書案内のコーナーを設けている。6年生のみ、読書案内の前に、作家や翻訳家の言葉を載せている。</li> <li>・6年生では、卒業の時期に、郷土をテーマとした教材を位置付けている。</li> </ul>	

種目名 国語	発行者名	光村図書出版株式会社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その学年で身に付けさせたい「言葉の宝箱」が2年生以上の巻末に設置されている。</li> <li>・「書く」の単元の中にも、書いた成果物を読み直すときのポイントが明確に示されている。</li> <li>・2学年以上の各学年4か所に「季節の言葉」を設け、季節感や伝統行事、風物詩を感じられる題材が取り上げられている。</li> <li>・3年生以上の各学年2か所に「声に出して楽しもう」が設定されており、俳句や短歌などの言語作品に触れて、音読したり、暗唱したりできる学習が位置づけられている。</li> <li>・「情報の扱い方」を「考える」、「情報に関連づける」、「集める」「調べる」と分類してとらえ、3年以上において見開き2ページで系統的に位置付けられている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の初めに「言葉のじゅんぴ運動」のページがあり、楽しんで話す聞く活動ができるように工夫されている。</li> <li>・「言葉のじゅんぴ運動」では、話型が示され「話す・聞く」の基本が示されている。</li> <li>・「読む」「書く」の単元において、話合いの言語活動が設定されている場合、お手本となる話型等が示されている。</li> <li>・文章が「聞きあおう」になっていて、聞くことに重点を置いている。</li> <li>・話し合いの題材が学校の中のものになっている。</li> <li>・書くための手助けとなる具体例や、活動手順が示されている。</li> <li>・巻末の付録に、考えを図で表すことや文章の書き方が具体的に示されている。</li> <li>・中・高学年の説明的文章の単元では、まず短い文章で読解の練習をしてから中心教材で活用できるように構成されている。</li> <li>・文学的文章では、他者理解、平和、自然、動物愛護、国際社会などをテーマとした教材文が取り上げられており、学習したことを実際の生活に生かせるように工夫されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学的文章の学習後には、学習したことを実際の生活に生かせるような工夫がされている。</li> <li>・単元末において、3冊程度の関連作品を紹介文付きで挙げている。単なる紹介にとどまらず、教材文と関連付けどのような視点で読み広げるのかについて示されている。</li> <li>・物語文や説明文等の最終ページに関連作品を画像入りで紹介するなどの工夫がなされている。</li> </ul>	

# 書 写

東 京 書 籍

学 校 図 書

教 育 出 版

光 村 図 書

日 本 文 教

## 観点の内容

### 国語科書写 目標

- (1) 文字を正しく整えて書くことができる。
- (2) 硬筆を使用する書写の能力の基礎を養う。
- (3) 書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点画の種類や字形、筆順の例示掲載数</li> <li>・姿勢や持ち方など書き方についての注意例の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛筆を使用する書写の指導が、毛筆書写の能力の育成で完結してしまわないように、毛筆と硬筆との関連的な指導を一層工夫するよう留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本となっている文字の数</li> <li>・手本に関わる例示の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、必要に応じて、取り立てて指導したり、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項と関連付けたりするように留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な用紙（ノート、模造紙、手紙、半紙、画仙紙など）への縦書き、横書き例や筆記具の紹介例の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科の学習や生活の様々な場面で積極的に生かし、適切に書けるように留意する。</li> </ul>

## 調査方法

### 種目名【 書写 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点画の種類や字形、筆順の例示を掲載している数について調査を行った。 (例) 横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点など</li> <li>・姿勢や筆の持ち方など基本的な書き方についての注意の数について調査を行った。 (例) 始筆から送筆、終筆の止め、はね、払いまでを意識して丁寧に書くなどの記述</li> </ul>
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆、毛筆の手本の大小を問わず、手本数について調査を行った。</li> <li>・手本を書く際の留意事項（文字の大きさや字間、筆づかいなど）を解説している箇所数について調査を行った。 (例) 形についての注意書き</li> </ul>
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、模造紙、手紙、半紙、画仙紙など様々な用紙に縦書きの例、横書きの例や紹介されている筆記具の数について調査を行った。 (例) ノートに書く、パンフレットを作る、手紙を書くといった具体的な活動の例示、硬筆で書くとよいか、毛筆で書くとよいか、情報機器の方が効果的かなどの記述</li> </ul>

# 調査結果 書写

	研究調査事項	観点A		観点B		観点C
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等
発行者		点画の種類や字形、筆順の例示掲載数	姿勢や持ち方など書き方についての注意例の数	手本となっている文字の数	手本に関わる例示の数	紙などへの縦書き、横書きの例、造紙、用紙（ノート、模造紙、手紙、半紙、画仙模）
東京書籍	1年生		○	○	○	
	2年生		○	○	○	
	3年生		○	○		○
	4年生			○	○	○
	5年生		○	○	○	
	6年生		○	○	○	
学校図書	1年生	○	○			○
	2年生	○	○			○
	3年生	○	○			○
	4年生	○	○			○
	5年生	○	○			○
	6年生	○	○			○
教育出版	1年生	○			○	○
	2年生	○	○		○	
	3年生	○			○	○
	4年生	○	○		○	
	5年生	○			○	○
	6年生	○	○			○
光村図書	1年生	○		○		○
	2年生			○	○	○
	3年生		○	○	○	
	4年生		○	○	○	
	5年生		○	○	○	
	6年生			○	○	○
日本文教	1年生	○			○	○
	2年生	○	○			○
	3年生	○	○		○	
	4年生	○	○			○
	5年生		○	○		○
	6年生		○	○		○

種目名 書 写	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢・持ち方、点画・筆使い、書くときの動き、字形、字間などの配列、筆記具という書写で学ぶことを「書写のかぎ」として、系統立てて示している。例えば、始筆・送筆・終筆や横画・縦画などの「書写のかぎ」について、第3学年から第6学年まで、学習事項や既習事項としてインデックスで示し、何を学んでいるのか児童が見てすぐに分かるように工夫されている。</li> <li>・第1学年では、右利き左利き両方の写真を載せ、鉛筆の持ち方を示し、第3学年では、毛筆の場合、用具を左右入れ替えるとよいなどの注意書きがしてある。また、書き込み欄を上下・左右に配し、利き手に限らず手本が見やすいようにしてある。</li> <li>・どこまでを一画で書くものなのかがよく分かるように、点画を分解し、それぞれに色を変えたり、全ての漢字に書き順を示したりして、全ての児童が学びやすいようにしてある。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すうっ」「ぴたっ」「とめてからぴよんとはねる」などの擬音語を用いて、注意書きや、それに合わせたキャラクターの動き、記号などを用い、児童が理解しやすいように工夫されている。</li> <li>・硬筆、毛筆の手本が大小に関わらず豊富で、手本を書く際の文字の大きさや字間、筆使いなどの解説が詳しく記述してある。また第1学年の教材は書き始めと書き終わりの記号を添えるなど段階的に細かい動きができるように導いている。</li> <li>・「書写のかぎ」を実際に書くことで確かめ、理解が深められるように「見つける」「確かめよう」「生かそう」の3つの構成にしてある。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活に広げよう」では、ノートやメモ、新聞やリーフレット等の作品例を紹介し、書写で身に付けた知識・技能が他教科の学習や特別活動等で生かせるように工夫されている。</li> <li>・「文字のいずみ」では、童謡や俳句・短歌、古文などをなぞり書きする活動や漢字や仮名の成り立ち、世界の文字などに関するコラムを数多く掲載し、我が国の伝統的な言語文化や世界の文字文化に親しめるようになっている。</li> <li>・第1学年、第2学年の教科書には、水書用紙と絵筆を使って書く例が取り上げられている。巻末には水書用紙がついている。</li> </ul>	

種目名 書 写	発行者名	学校図書株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の巻末あたりに、横画と縦画、折れ、曲がり、払いや点画のつながりと筆順などの1年間で学んだことを書いて確かめられるようにしてあり、前の学年で学んだことを復習できるように工夫されている。</li> <li>・全学年で、字形や筆順などについて「書き方のカギ（見方・考え方）」として示してあり、「止まらないで曲がる」や「長さの違いなどに気を付けよう」などの説明がしてある。</li> <li>・全学年で、よい姿勢・鉛筆の持ち方、折れ、曲がりなどの基本的な点画等についての書き方の説明として二次元コードを配している。それをタブレット等で読み取ることで、インターネット上のコンテンツを補助資料として利用しながら児童が学べるようにしてある。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写学習には「手本」が欠かせないため、第3学年以上の毛筆教材には、原寸大教材が示されている。特に、半紙原寸大の教材が充実している。また、書き初め教材についても、開いてそのまま使えるような工夫がされている。</li> <li>・単元の最後には「ふり返ろう」という欄が設けてある。そこでは、例えば、第5学年において「文字と行の中心に注意してかけているか」など、手本を書く際の注意書きを参考にしながら自分で確認できるようにしてある。</li> <li>・教科書で練習した漢字は、巻末に手本の一覧表として掲載し、効果的な書字練習ができるようにしてある。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語教材の一部を書いたり、はがきや封筒の宛先を書いたりするなど、書き込み欄が多く、書写の学習で身に付けた知識・技能が日常生活や学校生活の中で生かすことができるように工夫されている。</li> <li>・「書写の資料館」では、書き初めや新聞、ポスターなどの作品例やはがきや原稿用紙の書き方などの資料が多数掲載されている。</li> <li>・「なぜ？なに？書写の不思議」では、筆記具や用紙の製造方法や文字の成り立ちなどについて紹介し、書写学習の興味・関心を高めている。</li> </ul>	



種目名 書 写	発行者名	教育出版株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に運筆する力を付けるために、「よい姿勢」「鉛筆の持ち方」「しよしゃ体そう」などを配し、手・足・体を使い、「とん・すう・びたっ」などの合い言葉を唱え、楽しみながら学べるように工夫されている。</li> <li>・低学年では「なぞり書き」で折り返しや曲がり、結びなどの違いが分かるように図示している。また、中学年以上は「穂先の通り道」を掲載し、筆使いの注意書きや筆順などが図示されており、書き方の基本が確実に身に付くようになっている。</li> <li>・ますの中を四種類の色で四分割し、どこから書き始めるとよいか示したり、書き誤りやすい文字例などを重点的に扱ったりするなど、つまずきやすい児童への配慮がされている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「めあて」「考えよう」「ここが大切」「生かそう」「ふり返ろう」の流れで学習が進められるようになっている。例えば、筆使いの注意書きとそれを示した図を合わせて掲載し、自分の書き方の課題につながる「問い」が生まれるように工夫されている。</li> <li>・文字の大きさや字間、筆使いなどの注意書きが豊富である。</li> <li>・右ページに大きな手本、左ページでポイントを確認できる紙面構成になっており、写真やイラスト、言葉で筆使いが理解しやすくしてある。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「レッツトライ」では、見学メモや理科ノートの書き方などを紹介したり、「書いて伝えあおう」では、下書きから成果物の完成までの学習過程が分かりやすく示したりするなど、書写で学習した内容を他教科や学校生活に生かすことができるように工夫されている。</li> <li>・全学年で手紙やはがきの書き方を取り上げ、書写で学習した内容が学校生活で活用できる場面を紹介している。</li> <li>・第5学年の教科書では、様々な筆記具や用紙を紹介し、場面に合わせた書き方の工夫について示している。</li> </ul>	

種目名 書 写	発行者名	光村図書出版株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2学年以上の全教材に「たいせつ」という欄を設け、学習のポイントを示している。また、「中心に気を付けて書くと、字の形がととのう」などの注意書きを記載し、他の字を書くときにも活用できる基礎・基本を明確に示す工夫がしてある。</li> <li>・第1学年では、書き始め、書く方向、止めなどについて、記号や数字、イラストなどで図示し、視覚的に分かるような配慮がしてある。また、第1・第3・第5学年には、腕を大きく動かして文字を書く「空書き」を位置付け、「点画の書き方」への理解が深まるようにしてある。</li> <li>・「筆使い」「正しい姿勢」「アルファベットの書き方」などについて紙面上に二次元コードを配し、タブレットなどで読み取ると、簡単に閲覧できるようになっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字形の整え方については、教材文を大きくすっきりと示してある。また文字のバランスについてはイラストや字間などに変化をつけて違いを見つけさせるように問題形式で考える工夫がしてある。</li> <li>・硬筆、毛筆の手本が豊富で、手本を書く際の文字の大きさや字間、筆使いなどの解説が詳しく記述してある。</li> <li>・第3学年では、「たしかめようシール」を使って手本を書く際の注意書きが自己評価や相互評価に活用できるようにしてある。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で国語教科書と連動した教材（手紙の書き方など）や生活科、算数科、社会科など他教科でも生かせる教材が取り扱われており、書写の学習が日常生活において活用できるような工夫がしてある。</li> <li>・家の人に向けて学習発表会の招待状を書いたり、調べたことを新聞にまとめたりする活動など、家庭や地域社会と関わる言語活動を紹介している。</li> <li>・第1学年、第2学年の教科書では、「水ふでで書いてみよう」という学習を設定し、水筆を使って書き運筆を体感する学習を取り扱っている。</li> </ul>	

種目名 書 写	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年以上の毛筆教材では、毛筆学習で習得した書写の力を硬筆に生かせるように、それぞれの学習ページに「いかす」という欄を設け、硬筆での書き方が例示してあり、硬筆と毛筆の書き方の一体化を図る工夫がしてある。</li> <li>・姿勢や筆記具の持ち方の写真やイラストを、ポイントを明示しながら大きく示し、児童がいつでも確認できるように巻頭に掲載してある。また、払いの書き方を「すうっとはらう」などの注意書きとイラストで示すなど、文字を整えて書くための筆使いがイメージしやすいようにしてある。</li> <li>・「点画の組み立て方」「部分の組み立て方」「筆順」などについて、色分けや補助線、矢印などの向きなどを図示し、全ての児童に分かりやすい注意書きがしてある。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6学年では、右側のページの書き込み欄に普段書いている文字を書く。左のページを折ると、次のページから手本が現れる。手本と比較し、自分の課題を見付け、友達と話し合う。下段には読みやすく書くための既習事項を整理して示すなど、自分の文字の課題が分かるような工夫がしてある。</li> <li>・手本の注意書きを示すだけでなくキャラクターの言葉にめあてを達成するためのヒントを隠し、自分の文字と手本を比べ、主体的に学べるようになっている。</li> <li>・学年のはじめに、前学年までの既習事項を振り返る教材を設定し、学年の終わりには、その学年で学習したことのまとめ教材を示し、積み重ねを意識している。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国語の広場」では、学年や領域に応じた言語活動（報告文や提案する文を書くなど）を紹介し、目的や相手を意識した書き方が日常生活に生かせるように工夫している。</li> <li>・「生活と書写」では、絵日記や原稿用紙、学級新聞やポスターなど、他教科や総合的な学習の時間、日常生活など、様々な場面で参考にできる資料を多数掲載している。</li> <li>・第5学年、第6学年では、活字と手書き文字の違い、筆記具の種類や特徴を考える場面を設けている。</li> </ul>	



# 社 会

東 京 書 籍

教 育 出 版

日 本 文 教

## 観点の内容

### 社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けた社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や我が国の地理的環境、歴史や伝統文化、政治の動き、我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割について理解させるための教材・学習活動の箇所数</li> <li>・年表、地図、図、写真等の箇所数や資料の比較、意見の交流や記述を促そうとする箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や我が国の地理的環境、地域や我が国の歴史や伝統文化、現代社会の仕組みや働きを通して、社会生活についての総合的な理解を図るための知識を習得させることに留意する。</li> <li>・調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能、集めた情報を読み取る技能、読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能を児童が身に付けるよう指導することに留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解させることを取り扱っている教材・学習活動の箇所数</li> <li>・身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査に対する関心を高める内容を取り扱っている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する資質・能力を目指すことに留意する。</li> <li>・考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力と資料等を用いて作品にまとめたり図表に表したりする表現力を育成できるように留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象について、主体的に学習の問題を理解し、行動につながる教材・学習活動の箇所数</li> <li>・自分たちの住んでいる社会生活を総合的に理解させるための教材・学習活動の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度が育成できるように留意する</li> <li>・地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを捉えるよう留意する。</li> </ul>

調査方法

種目名【 社会 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の歴史や伝統文化、政治の動き、我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割について理解させるための教材・学習活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「歴史上の人物」と「代表的な文化遺産」が記載されている箇所および世界の国の人々の生活と国際交流の役割について記載されている箇所</li> <li>・年表、地図、図、写真等の箇所数や資料の比較、意見の交流や記述を促そうとする箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 年表、地図、図が記載されている箇所</li> </ul>
<p>B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解させることを取り扱っている教材・学習活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 領土に関する記載がされている箇所および日本の貿易や運輸についての記載されている箇所</li> <li>・身近な地域や市の様子の移り変わりなどの観察や調査に対する関心を高める内容を取り扱っている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方について具体的に記述されている箇所や、元号・少子高齢化・国際化について記載されている箇所</li> </ul>
<p>C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象について、主体的に学習の問題を理解し、行動につながる教材・学習活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 自然災害に関して記載されている箇所および情報を生かして発展する産業について記載されている箇所</li> <li>・自分たちの住んでいる社会生活を総合的に理解させるための教材・学習活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 地域の生産や販売に携わっている人々の働きについて記載されている箇所や滋賀県について記述されている箇所</li> </ul>

# 調査結果 社会

		観点A				観点B				観点C																	
		知識及び技能				思考力・判断力・表現力等				学びに向かう力・人間性等																	
発行社	研究調査事項	数の	のに	会の	治の	境の	地や	を較	等	年	活扱	理解	様子	我が	扱を	察や	遺跡	身	所	理	主	社	学	解	社	自	
		教材	にお	いて	ける	の国	き、	を促	の箇	表、	動の	つさ	や特	がの	高や	め調	やな	近	る教	解し	体的	会的	習	活	生	た	
		・学	理	解	の生	や我	が	そう	の箇	、地	の箇	いる	色を	国土	てめ	査に	化域	及	数	材・	行	学	象	の	の	ち	
		習	活	動	の	活	が	とす	交	や、	図、	材・	を総	と産	る箇	す	な	び	取	習	動	に	つ	問	て、	の	
	の箇	た	め	割	社	の関	係	環	を	交	流	や	資	料	の	写	真										
東京書籍	3・4年上																										
	3・4年下																										
	5年生																										
	6年生																										
教育出版	3・4年上																										
	3・4年下																										
	5年生																										
	6年生																										
日本文教	3・4年上																										
	3・4年下																										
	5年生																										
	6年生																										



種目名 社 会	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のポイントになる言葉をおさえるコーナーや難しい言葉の補助説明のコーナーを設け、大切なことが分かりやすいように工夫している。</li> <li>・「私たちの国土」の学習では、日本のはしの島を写真や文章で詳しく記載されている。また、西之島を紹介し、近年の国土の変化についても触れている。</li> <li>・4年生の「自然災害から暮らしを守る」や6年生の「自然災害からの復旧や復興を実現する政治」の単元では、地震を中心に展開され、資料も豊富である。防災や備えについて様々な立場での資料があり、原発問題も紹介している。</li> <li>・1ページあたりの資料数が多い。また、補助的な内容は「ひろげる」資料として、多くの内容が紹介されている。</li> <li>・小單元ごとに「つかむ」「調べる」「まとめる」等の学習活動を明示し、学習の進め方が分かりやすくなるように記載している。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生まで、単元の最初に「まとめ方」として、どのようにノートに記述すればよいか、また新聞やポスター等どんなものにまとめればよいかを明示している。その後、発達に合わせた「まとめ方」の記載になっていく。児童が学習の見通しをもちやすいよう工夫している。</li> <li>・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えさせる問いをアニメキャラクターを登場させて言わせるように工夫している。</li> <li>・学習のまとめでは、文章によるまとめ方・新聞作り・標語作り・ポスター作りなど、いろいろなまとめ方を紹介している。</li> <li>・単元によって学習問題をまとめたあとに「いかす」というページで、学んだことを生かして社会にみられる課題等について考えられるような工夫がみられる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4年生では、単元の最初に「まなびのポイント」が2、3点ずつ示されており、学習の流れを理解し、主体的に取り組めるよう工夫している。</li> <li>・巻頭に「Dマーク」（このマークがあるページでは、インターネットを使った学習が可能）についての説明が掲載されており、主体的に学習課題に取り組めるよう促している。</li> <li>・巻頭に「〇年生で学んだこと」（前学年の振り返り）と「〇年生で学ぶこと」（本学年で学ぶこと）が絵や写真入りでまとめて書かれており、見通しをもった主体的な学びにつながるようにしている。</li> <li>・6年の「日本とつながりの深い国々」の「いかす」活動では、オリンピック・パラリンピックを取り上げたり、留学生の話や歌舞伎について取り上げたりした後、自分が外国の人とどのようなかかわりをもつことが必要かを考えるコーナーを設け、世界の国々の人との関わりを自ら考えるようにしている。</li> </ul>	

種目名 社会	発行者名	教育出版株式会社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のポイントになる言葉は、「キーワード」として多く設けている。</li> <li>・インタビューをしているところでは、インタビューを受けている人の顔写真が多い。また、小單元の中で同一人物が多く、インタビューに継続性がある。</li> <li>・「共に生きる暮らしと政治」の学習では、オリンピックやパラリンピックの資料が多く記載され、東京オリンピックと関連させて学習を展開している。</li> <li>・歴史の学習や「寒い土地の暮らし」の学習では、アイヌ文化やアイヌの人々の歴史について詳しく記載している。</li> <li>・6年生の学習のまとめのページでは、学習したことを穴うめ問題で整理し、知識が定着しやすいように工夫している。</li> <li>・各学年に学びの手引きが記載されているが、社会科を初めて学習する3年生の巻末には、「社会科ガイド」として、情報の集め方・読み取り方・まとめ方をより詳しく紹介している。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年でも、巻頭に学習のまとめ方を記載している。3年生後半の「市のうつりかわり」で、単元の最初に「まとめ方」として、年表や絵カード等どんなものにまとめればよいかを明示している。児童の関心や思考の流れに合わせて学習が進むよう工夫している。</li> <li>・学習問題のまとめでは、図表や年表、地図やポスター、標語等、様々な表現ができるよう工夫している。</li> <li>・単元によって、学習問題についてまとめた後に、「つなげる」という見出しで社会への関わり方を選択・判断する話し合い活動を促す工夫をしている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時間の学習ごとに「この時間の問い」「活動」「次につなげよう」が示されており、主体的に学習に取り組めるようにしている。</li> <li>・3、4年生では、「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」というページがあり、話し合いをしてクラスの学習問題をつくることや、調べ方を挙げている。また、5、6年生では、これまでにわかったことを自分の体験とつなげて話し合う等と発達段階に応じた学習の進め方を示し、自主的に学習を進めることができるようにしている。</li> <li>・学習に役立つ情報をウェブサイトでみることができる「まなびリンク」が多数あり、自主的に学習を進める助けとなる。</li> <li>・3、4年生では、「わたしたちの市（地域）では、どのような～だろう」という問いかけをして、自分たちの生活や地域に目を向けさせている。</li> <li>・6年生の「日本とつながりの深い国々」の学習では、「〇〇と日本にはどのようなつながりがあるのだろうか。」と「つながり」を明示した問いとなっており、外国を調べる活動の中で、その国と日本とのつながりを意識しながら学習を進めることができるようにしている。</li> </ul>	

種目名 社会	発行者名	日本文教株式会社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のポイントとなる言葉は、キーワードコーナーを設け、補助説明を付け足したり、文中では太文字にしたりして工夫して記載している。</li> <li>・5・6年生の「日本の国土」や「領土問題」の学習では、広範囲の地図や島付近の地図・写真・文章で説明されており分かりやすい。また、択捉島や与那国島は、島内の写真を記載している。</li> <li>・「キーワードコーナー」だけでなく、「世界遺産マーク」「難しい言葉マーク」「学習資料」「やってみようコーナー」「見方・考え方コーナー」「学び方・調べ方コーナー」等、多くのコーナーがあり、知識理解の定着や発展が図れる。</li> <li>・1つ1つの資料が大きく見やすい。</li> <li>・4年生の「わたしたちの県」の学習では、地勢図の読み取り方や土地利用図の読み取り方などの資料があり、地図帳と関連して学習できるように記載している。また、特産物やゆるキャラの視点の資料もある。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年にわたり、学習する内容等によって、単元の最初に「まとめ方」としてノートにどのようなことをまとめるか、また、調べたことをもとに話し合うことが示されているところがある。</li> <li>・巻頭にある「この教科書の使い方」の記載で、どのページも本文の最初に子どもの学習活動とその時間の問いが書かれていることが示されている。社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えたり、社会へのかかわり方を選択・判断したりできるよう工夫している。</li> <li>・学習問題のまとめでは、どのように話し合うかがマンガで示している。どの単元でも、議論による学習のまとめに力点を置いている。</li> <li>・学習問題が解決したら、「さらに考えたい問題」として連続性のある新たな問いが示している。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「〇年生の社会科の学習でたいせつなこと」のページがあり、何をどのように学んでいくのか、それらを学ぶことによってどのようなことができるようになるのかが、学年の発達段階に応じた文章で述べられており、主体的な学びにつながる。</li> <li>・見開きのページごとに教科書の登場人物が「～だろう？」と問いを発しており、主体的に学習の問題を捉えられるようにしている。</li> <li>・3年生「火事から人々を守るために」では、湖南広域消防局や滋賀県地図、4年生「くらしをささえる水」では、琵琶湖一斉清掃や琵琶湖の水をコンピューターで管理すること等、滋賀県に関わる事柄を掲載している。</li> <li>・6年生の巻末に「歴史年表」があり、そこに「日本や世界のおもなできごと」と「みなさんと家族にとってのおもなできごと」を書き込んで「自分の年表」を作ることができるようにしており、自分と社会とのつながりを意識することができるよう工夫している。</li> </ul>	



# 地図（社会）

東京書籍

帝国書院

## 観点の内容

### 社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けた社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の活用方法を取り上げている箇所数・ページ数</li> <li>・見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数・ページ数</li> <li>・発達段階に応じた内容を取り上げている箇所数・ページ数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科用図書「地図」は、地図を効果的に活用することともかかわって、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。教科用図書「地図」は、地名の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわりを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、教科用図書「地図」を日常的に活用し、教科用図書「地図」への親しみを持たせ、問題解決のために教材として効果的に活用する知識や技能を育てるように留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本図の数 (世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図)</li> <li>・資料図の数 (社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわり、その他)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する資質・能力を目指すことに留意する。</li> <li>・考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力と資料等を用いて作品にまとめたり図表に表したりする表現力を育成できるように留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の統計資料の項目数・ページ数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度が育成できるように留意する</li> <li>・地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを捉えるよう留意する。</li> </ul>

調査方法

種目名【 地図 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図の使い方等が記載されている箇所の調査を行った。 例) 地図の見方、地図記号の説明などが掲載されている箇所</li> <li>・ 地図の活用方法、見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方について、具体的に記述されている箇所の調査を行った。 例) 地図の活用方法などが掲載されている箇所</li> <li>・ 発達段階に応じた内容を取り上げている箇所数の調査を行った。 例) 3年生以上で活用する地図として、発達段階に応じた内容が掲載されている箇所</li> </ul>
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地名や境界線、等高線、交通路等の基本的な地域の情報を掲載した地図を基本図とし、産業や自然等にかかわる資料情報を掲載した地図を資料図として数の調査を行った。 例) 基本図・資料図が掲載されている箇所</li> <li>・ 基本図を世界全図、日本全図、世界州別図、日本地域別図に分類し、箇所数について調査を行った。 例) 世界全図・日本地図・世界州別図・日本地域別図が掲載されている箇所</li> <li>・ 資料図を「社会的事象の様子や関係」、「自然環境とのかかわり」、「その他」に分類し、数の調査を行った。 例) 社会的事象・自然環境（自然災害や防災）について取り上げている資料図・写真・図が掲載されている箇所</li> </ul>
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末の統計資料の項目数とページ数の調査を行った。 例) 統計資料として掲載されている項目</li> </ul>

# 調査結果 地図

		観点A			観点B			観点C
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等
発行社	研究調査事項	地図の活用方法を 取り上げている箇所 数・ページ数	見学の進め方を 学習の進め方を とめる方を とめる箇所 数・ページ数	発達段階に 応じた内容を 取り上げた 箇所数・ページ 数	基本図の数 (世界図、 日本図、 地域別図、 州別図、 世界図、 日本図)	関係的資料 的資料の 数(社会 や環境 との関 わり、 自然の 様子)	項目末の統計資料の 数・ページ数	
	東京書籍	3年生						
4年生			○	○		○		
5年生								
6年生								
帝国書院	3年生							
	4年生	○		○		○		
	5年生							
	6年生							



種目名 地 図	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図に加えて、イラストや写真、図や吹き出しを多用することで、発達段階に応じて親しみやすくなるよう工夫されている。</li> <li>・日本全体や世界全体を地図としてとらえるだけでなく、その国や地域の形やイメージを身近なものに例えて、捉えやすくなるよう工夫されている。</li> <li>・日本の地域区分では、掲載されている箇所すべてに「この地図の位置」というコーナーを設け、日本列島における位置関係を示しており、その地域の日本列島における位置関係を把握しやすくなるよう工夫されている。</li> <li>・世界の地域区分では、同緯度・同縮尺の日本地図を掲載したり、実際の距離をイメージしたものさしを示したりすることで、距離や縮尺といったものを発達段階に応じて、捉えられるよう工夫している。</li> <li>・資料を見るとき視点やグラフの見方など、基礎的・基本的事項に触れることで、地図の活用方法をわかりやすく示している。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料図として、日本の自然・産業・貿易といった「社会的事象の様子や関係」をわかりやすく考えられるようにそれぞれ見開きページで扱っている。</li> <li>・巻末の地図で、日本の「自然環境とのかかわり」を自然災害や防災の視点で俯瞰できるよう工夫している。</li> <li>・上記以外の「その他」として日本の歴史と世界との関わりや、世界遺産と関連させて、日本の歴史と文化を扱うなど、多角的に考える力の育成につながるよう工夫している。</li> <li>・「くらべてみよう」では、日本と世界を多面的な視点で比較し、捉えられるよう工夫している。</li> <li>・資料や地図に関連した写真が多く使われている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「Dマーク」（このマークがあるページでは、インターネットを使った学習が可能）についての説明が掲載されており、主体的に学習課題に取り組めるよう促している。</li> <li>・巻末の資料地図は「主題図」となっており、自然・産業・貿易といったテーマごとに地図で表し、日本と世界の地理的特徴を自分の地域や国として意識して捉えられるよう工夫している。</li> <li>・日本の歴史と文化を日本の世界遺産とむかしの地名とを地図上で関連させて示されており、日本の歴史的なつながりを意識できるよう工夫している。</li> <li>・巻末の日本の都道府県の統計では、おもな伝統工芸品やおもな郷土料理といった項目が設けられており、地域社会に対する誇りや愛情を持てるよう工夫されている。</li> <li>・巻頭に「ちずのぼうけん」「発見！私たちの日本」というイラスト中心の簡易な地図があり、興味・関心が持ちやすいように工夫している。</li> </ul>	

種目名 地図	発行者名	株式会社 帝国書院
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界と日本の全体像を関連する国旗やイラストを用いて示すなどして、発達段階に応じて捉えやすくなるよう工夫している。</li> <li>「地図のやくそく」と「地図帳の使い方」をそれぞれ別コーナーに設けることで、発達段階に応じた地図の見方や使い方を示している。</li> <li>日本の地域区分に関しては、通常地域区分だけでなく、「広く見わたす地図」を掲載し、発達段階に応じてその地域を捉えられるよう工夫している。</li> <li>地図の活用方法に関しては、「地図マスターへの道」というコーナーで、地図に関する問題の難易度をレベル1～レベル3と段階を設け、発達段階に応じて問題に取り組めるよう工夫している。</li> <li>世界の地域区分では、同緯度・同縮尺の日本地図を掲載したり、実際の距離をイメージしたものさしを示したりすることで、距離や縮尺といったものを発達段階に応じて、捉えられるよう工夫している。</li> <li>「防災マップづくり」では自然災害や防災といった視点に特化した見学調査の方法が具体的に示されている。</li> <li>日本の地域区分では、掲載されている箇所すべてに、日本列島における位置関係を示しており、その地域の日本列島における位置関係を把握しやすくなるよう工夫されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料図として、日本の自然のようす・日本の自然災害と防災・日本の産業の様子・日本と世界の結びつきといった視点で社会的事象の様子や関係を多角的に捉えられるよう工夫している。</li> <li>巻末の地図では日本の都道府県の名前と位置を「形」・「文字」・「位置」といった視点に分けて、多面的に捉えられるよう工夫している。</li> <li>日本の歴史と世界文化遺産を関連させて、歴史的事象の位置関係を地図で確認できるよう工夫している。</li> <li>淀川や多摩川の水系地図があり、川の流れが視覚的に捉えやすくなっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「日本の自然災害と防災」では、計4ページにわたり取り上げ、ハザードマップづくりなど自ら災害を防ぐ工夫を考えたり、自分の地域に置き換えたりして、主体的に考えられるよう工夫している。</li> <li>「日本の歴史と文化」では、日本の世界遺産とむかしの地名を地図上で関連させて示されており、日本の歴史的なつながりを意識できるよう工夫している。</li> <li>巻末の日本の統計では、「くらしと環境」や「ふるさと自慢（まつり・伝統芸能・農産物・料理・観光地・自然など）」、「おもな伝統的工芸品と生産都市」を項目として掲載し、地域社会に対する誇りと愛情を持てるよう工夫している。</li> <li>世界の国々や世界の人々との結びつきを強め、共に生きていくよう促すための資料として、日本で暮らす外国人数や観光で訪れる外国人の推移を統計資料等で示している。</li> <li>多くのページに「二次元コード」（インターネットを使った学習が可能）が掲載されており、主体的に学習課題に取り組めるよう促している。</li> </ul>	

# 算 数

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

日 本 文 教

## 観点の内容

### 算数科 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数</li> <li>・学習のまとめ、公式や性質として扱っている事項の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けるべき基礎的・基本的な内容の習得を重視するとともに、その背景にある概念や性質について理解を深めながら、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を習得させることに留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数</li> <li>・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数</li> <li>・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする学習活動を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決したり、物事を判断したり、推論を進めたりしていく過程において、見通しをもち筋道を立てて考えて、いろいろな性質や法則などを発見したり確かめたり、筋道を立てて説明したりする資質・能力の育成を目指すことに留意する。</li> <li>・考えたことを目的に応じて柔軟に表現することを通して、数学的な表現の必要性や働き、よさについて実感を伴って理解できるように留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数</li> <li>・生活や学習の様々な場面で算数を活用する内容を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形の知識及び技能に含まれるよさや、数学的な思考、判断、表現等に含まれるよさ等に気付かせ、有用性、簡潔性、一般性、正確性、能率性、発展性、美しさなどの様々な視点から算数の学習を捉えるように留意する。</li> <li>・算数で学んだことを日常生活や学習に活用できるようにし、活用を重視した創造的な学習展開を用意することに留意する。</li> </ul>

調査方法

種目名【 算数 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A 知識及び技能</p>	<p>・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数について調査を行った。 例) 「例・例題」の箇所および、適用問題の箇所</p> <p>・学習のまとめ、公式や性質として扱っている事項の箇所数について調査を行った。 例) 「( ) のある式では、( ) の中をひとまとまりとみて、先に計算します」「長方形の面積=たて×横」など、特だしで記載している箇所</p>
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<p>・思考力・判断力・表現力を身に付けさせる「例・例題」「問・問題」の箇所数について調査を行った。 例) 「例・例題」の箇所および、適用問題の箇所</p> <p>・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数について調査を行った。 例) 「24は20に近いから…」 「段の数と周りの長さには、どんな関係があるのかな。」 「どんなけががどこで多かったかを調べるには、どんな表に表せばいいかな」など、吹き出しなどで課題を明確にしたり、見通しをもたせたりする内容が記載されている箇所</p> <p>・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり説明したりする学習活動を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 「～を説明しましょう。」 「～のわけを言いましょう。」 「～図や式に表しましょう。」 など、表現したり、説明したりする活動が記載している箇所</p>
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<p>・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数について調査を行った。 例) 「折れ線グラフに表すとよいのはどれですか。」 「折れ線グラフは、変わり方の様子を見るのに便利です。」 「表をつくると、きまりを見つけやすくなるね。」 など、問題やまとめ、吹き出しなどでよさについて記載されている箇所</p> <p>・生活や学習の様々な場面で算数を活用する内容を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 「身の周りから、平行や垂直になっている面と面を見つけましょう。」 など、問題に設定されているものや、コラム等で算数を活用している場面を紹介している箇所</p>

# 調査結果 算数

		観点A		観点B			観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
発行社	研究調査事項	題「例の箇所数	「例の箇所数	所例を「問・問題」の箇	を筋に問題を取り扱って見通しをもつて考える内容	所活動を取り上げた学習	扱いもよき内容から取り	取り上げている箇所数
		「例の箇所数	「例の箇所数	「例の箇所数	「例の箇所数	「例の箇所数	「例の箇所数	「例の箇所数
東京書籍	1年生		○		○		○	
	2年生		○		○		○	
	3年生		○		○		○	
	4年生		○		○		○	
	5年生		○		○		○	
	6年生		○		○		○	
大日本図書	1年生		○		○	○		
	2年生	○	○			○		
	3年生	○	○			○		
	4年生	○		○		○		
	5年生			○		○		○
	6年生			○		○		○
学校図書	1年生	○		○				○
	2年生		○	○				○
	3年生	○	○	○				
	4年生		○	○		○		
	5年生		○	○				○
	6年生		○	○		○		
教育出版	1年生		○				○	○
	2年生			○			○	○
	3年生			○	○			○
	4年生	○			○		○	
	5年生		○		○			○
	6年生	○	○		○			
啓林館	1年生	○		○			○	
	2年生	○		○				○
	3年生	○			○		○	
	4年生	○		○	○			
	5年生	○					○	○
	6年生	○		○	○			
日本文教	1年生				○	○		○
	2年生	○				○		○
	3年生	○				○		○
	4年生	○			○	○		
	5年生	○			○	○		
	6年生	○			○	○		

種目名 算 数	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全単元末に基礎的・基本的な学習内容の理解を確認し、技能を定着させるページが設定されている。</li> <li>・単元ごとに「前の学習」「後の学習」が示され、学習内容や数学的な見方・考え方の関連や系統を意識できるようになっている。</li> <li>・どの学年、どの単元においても学習のまとめ、公式や性質を分かりやすく提示する工夫がされている。</li> <li>・巻頭には二次元コードが掲載されており、動画やシミュレーションで何度も確認しながら各学年で学習した内容を反復練習ができるコンテンツが用意されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見・解決をする過程で見通しをもち筋道を立てて考えることができるような学習の流れになっている。また、吹き出しなどを用いて課題を明確にしたり、見通しの手立てとなるヒントを掲載したりするなどの工夫がされている。</li> <li>・単元内の適切な箇所に「(考えや理由を)説明しましょう」の指示文が設けられ、効果的・効率的に言語活動が取り入れられるようにされている。特に、2年下巻以上の各巻の「考えよう伝えよう」では、児童の考えを式や図などの数学的な表現を用いた言語活動例として示している。</li> <li>・作図の方法について、連続した写真が掲示されており、視覚的に分かりやすい工夫がされている。</li> <li>・数量や図形を見出したり進んで関わったりする活動を積極的に行うために、1学年では具体物を操作したり、用いたりすることが重視されている。</li> <li>・プログラミング教育については、5、6年生の教科書に特設ページが設定されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図・表・写真・挿絵が豊富であり、単元学習の始めに「これまでの学習の振り返り」を設け、単元の学習内容との結びつきを意識させ、学習意欲を高める工夫がされている。</li> <li>・単元末「生かしてみよう」では、学びを日常の世界で生かす場が設定されている。また、巻末の「おもしろ問題にチャレンジ」では、学びを算数・数学の世界で生かす場が設定されており、学びを生かす経験を積み重ねることで、生きて働く知識・技能の定着や学びを生かす力の育成が重視されている。</li> <li>・様々な考え方のそれぞれのよさや方法などのよさを明らかにしていくような課題や吹き出しが、数多く掲載されている。</li> </ul>	

種目名 算 数	発行者名	大日本図書株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的・基本的な知識及び技能を身につけられるように、問題が多く掲載されている。用語や公式などの説明を枠組にし、学習のポイントが分かりやすく明記されている。</li> <li>・ 単元末のたしかめ問題の最初に「しっかりチェック」として、基礎・基本のおさえや間違いやすい問題を取り扱っている。</li> <li>・ 2年生以降の巻末に全領域にわたり、適用問題や単元末の「まとめの練習」に対応した補充問題「プラスワン」が掲載され、問題の難易度も示されている。</li> <li>・ 前学年までのまとめでは、前の学年までの既習事項が、一目で確認できるようになっている。また、全学年年間1冊の合本とし、振り返りや学び直しがしやすい構成になっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごとに「前の学習」「後の学習」が示され、学習内容や数学的な見方・考え方の関連や系統を意識できるようになっている。</li> <li>・ 特設ページ「算数たまたまばこ」では、思考力、表現力を養うトピック教材や、算数への関心を高める話題を扱うことで算数的活動の充実が図られている。</li> <li>・ 単元の始めには、既習事項をもとに学習が進められるよう工夫され、立式の理由や計算の仕方を記述し、説明をする欄が設定されている。</li> <li>・ どの学年、どの単元においても、具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする活動が多く取り上げられている。</li> <li>・ プログラミング的思考を育むために、「プログラムにちょうせん」のページが全学年に新設され、発達段階に応じて、算数に関連した内容が取り上げられている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習材として、日常生活や他教科に関連付けた興味深い話題を取り上げ、日常生活と関連した課題が掲載されている。</li> <li>・ 「ふくろう先生のならほど算数教室」では、算数に親しむコラムが3～6年生に掲載されている。</li> <li>・ 「算数たまたまばこ」では、日常生活から算数を見つけたり、学習したことを日常生活に生かしたりする活動を取り上げている。</li> </ul>	



種目名 算 数	発行者名	学校図書株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的・基本的な技能を身につけさせるための問題を多く取り上げ、繰り返し練習できるようになっている。</li> <li>・ 1～3年生までは基礎的・基本的問題が多く、4～6年生では思考を問うような問題が多く取り上げられている。</li> <li>・ 「ふりかえろう・つなげよう」ではこれまでの学習を振り返ることで、学習を統合的にみることができるよう工夫されている。</li> <li>・ どの単元においても学習のまとめ、公式や性質を分かりやすく提示する工夫がされている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を深化させる発言を促すような吹き出しが挿入され、学習を深められるように工夫されている。</li> <li>・ 全学年を通して、思考力・判断力・表現力を養う問題が数多く取り上げられている。4年生以上ではそれが顕著に表れている。</li> <li>・ 発達段階に応じて、子どもたちが図を効果的に活用できるように学年ごとに異なる図が示されている。また、友だちと考えを読み取ったり共有したりする場面があり、他者との協働・意見の尊重ができるように促している。</li> <li>・ 思考を深められるように、「こんな場合はどうなるのか」「条件を変えたらどうなるのか」など、問題を発展させるような吹き出しが掲載されている。</li> <li>・ 全学年においてプログラミングを扱ったページが掲載されている。また、タブレットやスマートフォン、パソコンを使って二次元コードから実際に動かすことのできる簡易サイトが用意されており、直観的な動作で徐々にプログラミング的思考力、論理力が身につくように工夫されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身に付けた算数の知識を身の回りで使えるよう課題が提示され、社会でも活用しようとなつなげている。</li> <li>・ 導入では、日常生活など身近なことや算数の中から問題を発見することで、興味関心をもって単元の学習に入っていけるよう工夫されている。</li> <li>・ 式の意味を理解させるために吹き出しで数字の意味を示し、数量の関係が捉えやすいようにしている。</li> </ul>	

種目名 算 数	発行者名	教育出版株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくある間違いを掲載し、子どもがつまずきのポイントを意識できるようになっている。</li> <li>・既習内容を巻末にまとめ、系統を意識して学べるようにしている。また、わからないところがあれば学びのマップにより参照できるように工夫されている。</li> <li>・知識を振り返ったり、技能を確かめたりする単元のまとめ問題が設定されている。</li> <li>・反復練習では、基本的な計算の型を色分けし、練習量の調整ができるように工夫されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言葉で考え方を伝え合い、学び合いができるよう数学的な考え方を引き出す言葉を整理して掲載している。</li> <li>・考えたことの足跡が残せるようにノート書き方を例示し、表現力を高められるよう工夫している。</li> <li>・算数を使って日常の問題を解決できるよう学んだことよさを実感しながら問題解決に向かえるような課題が提示されている。</li> <li>・問いをもって学ぶことを大切にし、主体的な学びになるよう工夫されている。</li> <li>・問題発見・解決をする過程で見通しをもち筋道を立てて考えることができるような学習の流れになっている。</li> <li>・5年生「正多角形と角」の単元でプログラミングを扱うページが掲載されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の魅力を感じ、子どもたちが興味をもって探究的に取り組むことができるよう生活の中にある算数の場面を取り上げている。</li> <li>・単元の導入では、日常生活において課題を引き出せるように問題場面を設定している。</li> <li>・学年末には「算数を使って考えよう」が設けられており、複数の学習内容からなる総合的な学習問題が用意されている。</li> <li>・単元の始めには、学びに向かうきっかけをつくるさまざまな活動（「予想する」「やってみる」「話し合う」「振り返る」）が取り上げられている。</li> </ul>	

種目名 算 数	発行者名	株式会社新興出版社啓林館
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学年を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるような問題が多く提示されている。</li> <li>・ 各学期の中間期末にあたる時期に「復習」を配置し、その学年や前学年の内容だけでなく、習熟が必要な計算問題などはさらに前の学年まで遡って取り上げ、定着・維持ができるように配慮されている。</li> <li>・ 既習事項が巻末に「じゅんぴ」として取り上げられ、新しい単元に入る前にレディネスチェックできるように配慮されている。</li> <li>・ 定着しにくい基礎的、基本的な内容は、学年を超えて繰り返し扱うなど、つまずきやすい内容が確実に身につくように配慮されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「24は20に近いから・・・」などのように、説明の部分をすべて示すのではなく、続けて考えさせるようにすることで、子どもの思考を促すようにまとめられている。</li> <li>・ 巻末「学びのサポート」では、説明の仕方や図の書き方など算数科における表現の手立てとなるものをまとめて掲載している。</li> <li>・ 思考の助けとなる図・表・式などを例示し、話し合いの場面では根拠や手順などを説明する活動を通して、数学的な思考力や表現力の育成が図られるように工夫されている。</li> <li>・ 問題発見・解決をする過程で見通しをもち筋道を立てて考えることができるような学習の流れになっている。</li> <li>・ 「P」マーク（このマークがあるページでは、プログラミング的思考を育める学習が可能）がつけられ、児童も教師も意識できるように工夫されている。また、4年生の「1けたでわるわり算」では、プログラミング的思考としてわり算の筆算のアルゴリズムの手順が強調されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末の「わくわく算数ひろば」では、算数を使った場面が掲載され、学んだことを生かすような問題が提示されている。</li> <li>・ 3年生以上では、学んだことを活用して身の回りの生活改善を計画し、実践する「みらいへのつばさ」が設けられている。</li> <li>・ 「学びを活かそうやってみよう」では、学習したことを算数や生活に生かして、算数の有用性を実感できるようにしている。</li> <li>・ 考え方のそれぞれのよさや方法などのよさを明らかにしていくような課題や吹き出しが、多く掲載されている。</li> </ul>	

種目名 算 数	発行者名	日本文教出版株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な内容を定着させるため、学習したことを繰り返し確認し、次の単元に入る前には、これから学習する内容に関わる既習事項を、単元の終わりにはその単元で学んだことを確かめるページが設定されている。</li> <li>・基礎的・基本的な知識及び技能は、適度な量の練習を扱うとともに、巻末の「しっかりチェック」で繰り返し練習することにより、習熟・定着が図れるようになっている。</li> <li>・子どもがつまずきやすい内容が含まれる単元には「わかっているかな」を設け、子どもがわかったつもりになりがちな内容を、丁寧に振り返ることができるように構成されている。</li> <li>・単元前には、既習事項を確かめる「次の学習までに」巻末には既習の学習内容を確かめる「〇年生までに学習したこと」が設けられている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発言などを用いて問題解決の方法の見通しを立てたり、結果の見積もりを行ったりしながら学習を進めていくようにしている。</li> <li>・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用いて自分の考えを表現したり説明したりするために、「よみとろうあらわそう」では、言葉、数、式、図など数学的な表現の相互関連を整理するような内容や、テープ図や数直線図の読み方、かき方についても系統的に整理している。</li> <li>・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用いて自分の考えを表現したり、説明したりする学習を数多く取り上げている。</li> <li>・自分の考えを表現したり、わかりやすく説明したりするための指針となる「算数で使いたい言葉・考え方」を設けている。</li> <li>・5年生の「正多角形と円」の単元内でプログラミングを体験するコーナーを設けている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの身近な生活場面から多くの問題を見つけ、数理的な処理のよさを感じられるようにするとともに、算数を実際の生活場面と結び付けていく数学的活動が取り入れられている。</li> <li>・単元を習得した知識及び技能を用いて数学的活動に取り組む「ハロー！算数」が設定されている。</li> <li>・2年生以降の下巻本編末「算数アドベンチャー」では、算数への興味・関心を高めたり、数学的なおもしろさを実感できたりするような題材が用意されている。</li> </ul>	

# 理 科

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

信 州 教 育 出 版

啓 林 館

## 観点の内容

### 理科 目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を通してわかったことや学習のまとめが明示されている箇所数</li> <li>・観察、実験において、器具や機器などの使い方に関する記述の箇所数および事故防止等の安全に関する記述の箇所数</li> <li>・観察記録や実験結果を絵や文、表やグラフで表す学習活動を具体的に例示した箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、問題解決の過程を通して、あらかじめもっている自然の事物・現象についてのイメージや素朴な概念などを、既習の内容や生活経験、観察、実験などの結果から導きだした結論と意味付けたり、関係付けたりして、より妥当性の高いものに更新していくことで、理解を深められるよう留意する。</li> <li>・観察、実験などに関する技能については、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録することが求められる。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の見いだし、予想や仮説の発想、解決の方法の発想、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成に関わる学習活動を具体的に例示した箇所数</li> <li>・問題解決の過程の中で、意見や考えを交流する学習活動を取り入れている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自然の事物・現象に親しむ中で興味・関心をもち、そこから問題を見いだし、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を整理し、その結果を基に結論を導きだすといった問題解決の過程の中で、問題解決の力を育成するよう留意する。</li> <li>・第3学年では主に差異点や共通点を基に問題を見いだし、第4学年では主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する、第5学年では主に予想や仮説を基に解決の方法を発想する、第6学年では主により妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成を目指している。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の栽培や昆虫の飼育等について、具体的な方法を示した箇所数</li> <li>・実生活や実社会と関連付けたコラムや科学史に関する読み物の箇所数および発展的な内容の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動を通して、生物を愛護しようとする態度が育まれ、植物の結実の過程や動物の発生や成長について観察したり、調べたりする中で、生命を尊重しようとする態度が育まれることに留意する。</li> <li>・意欲的に自然の事物・現象に関わろうとする態度、粘り強く問題解決しようとする態度、他者と関わりながら問題解決しようとする態度、学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする態度等の育成を目指していくことが大切である。</li> </ul>

調査方法

種目名【 理科 】

観点	調査した内容・項目についての説明
<p>A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を通してわかったことや学習のまとめが明示されている箇所数について調査を行った。</li> <li>・観察、実験において、器具や機器などの使い方に関する記述の箇所数および事故防止等の安全に関する記述の箇所数について調査を行った。 例) 顕微鏡の使い方、電流計の使い方、メスシリンダーの使い方 等 保護めがねをつけて実験を行う、窓を開けて実験を行う 等</li> <li>・観察記録や実験結果を絵や文、表やグラフで表す学習活動を具体的に例示した箇所数について調査を行った。 例) 花のつくりを絵と文で表している 実験用てこがつり合うときのきまりを表にまとめている 等</li> </ul>
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の見だし、予想や仮説の発想、解決の方法の発想、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成に関わる学習活動を具体的に例示した箇所数について調査を行った。</li> <li>・問題解決の過程の中で、意見や考えを交流する学習活動を取り入れている箇所数について調査を行った。 例) 予想を話し合ったり、結果からどのようなことが言えるのかについて話し合ったりする場面が設定されている 等</li> </ul>
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の栽培や昆虫の飼育等について、具体的な方法を示した箇所数について調査を行った。 例) トンボやバッタの飼い方、種のまき方 等</li> <li>・実生活や実社会と関連付けたコラムや科学史に関する読み物の箇所数および発展的な内容の箇所数について調査を行った。 例) 日食や月食について、てんびんの歴史について、火山の熱の利用 等</li> </ul>

# 調査結果 理科

		観点A			観点B			観点C					
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等					
研究調査事項	発行社	所とわ問 数がかっ 明したこ 示され てや学 習のま 箇所	す事 る記 述の 箇 所 数	具 や 機 器 な ど の 箇 所 数	観 察 記 録 や 実 験 結 果 を 絵 表 で 示 す	学 習 活 動 を 具 体 的 に 例 示	や 観 察 記 録 や 実 験 結 果 を 絵 表 で 示 す	示 る 学 習 活 動 の 箇 所 数	問 題 の 見 いだ し、 予 想 や 方 法	個 習 意 見 や 考 え を 取 り 入 れ て い る 学 習 活 動 の 箇 所 数	法 を 示 し た 箇 所 数	植 物 の 栽 培 や 昆 虫 の 飼 育 等 に 関 する 具 体 的 な 方 法	び す け 実 生 活 や 実 社 会 と 関 連 付 く 内 容 の 箇 所 数
		東京書籍	3年生	○						○			○
4年生	○			○						○			
5年生				○				○		○			
6年生	○			○						○			
大日本図書	3年生							○		○			○
	4年生							○		○	○		
	5年生			○				○		○			
	6年生							○		○	○		
学校図書	3年生	○						○		○			
	4年生	○						○			○		
	5年生			○				○		○			
	6年生			○				○		○			
教育出版	3年生	○						○					○
	4年生			○				○					○
	5年生							○			○		○
	6年生	○						○					○
信州教育出版	3年生					○					○		○
	4年生			○		○							○
	5年生					○					○		○
	6年生					○					○		○
啓林館	3年生	○		○		○							
	4年生	○		○							○		
	5年生	○		○							○		
	6年生	○		○									○



種目名 理 科	発行者名	東京書籍株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まとめ」の内容は、「問題」の答えとなる表現になっており、箇条書きでまとめられている。</li> <li>・「きけん」マークをつけ、禁止事項とその理由を赤で記述し、安全に配慮できるようになっている。</li> <li>・器具の使い方について、巻末の「資料」にまとめられており、すぐに確認できるようになっている。</li> <li>・巻末の二次元コードを読み取ると、器具の使用方法を動画で確認することができる。</li> <li>・「問題」や「予想」、「結果」等をまとめたノートの手書きの例を示している。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元導入では、比較や関係付けを通して問題をつかむことができるような写真やイラストが掲載されており、児童の興味・関心が高められるよう工夫されている。</li> <li>・問題の見だしから考察や結論の導出まで、問題解決の過程を一本の線でつなぎ、自然な流れで読み進められる構成となっている。</li> <li>・問題の見だしや予想、計画、考察する場面において、学習活動の手順を示すことで、児童が自分で考えたり、友達と話し合ったりできるようにしている。</li> <li>・3年生では「問題をつかもう」、4年生では「予想しよう」、5年生では「計画しよう」、6年生では「考察しよう」といった、各学年で重点的に育成を目指す「問題解決の力」に関わる場面において、児童が対話するイラストを用いるなど、対話を通して思考を広げ、深められるような構成となっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察する上で生物を愛護することや、生命を尊重する態度を育むために留意すべき点が観察内容に含まれており、マークを用いて意識しやすくなっている。</li> <li>・「学びを生かして深めよう」では、結果や考察（まとめ）の後に、日常生活で経験する身近な自然事象や生き物の生態に関する内容について説明させるなど、再度課題を設定し、粘り強く問題解決を図れる内容になっている。</li> <li>・「理科のひろば」では、観察、実験において発展させた知識や科学的なものの見方や考え方を広げる内容、中学校で学習する内容等が掲載されている。</li> <li>・自由研究を解説した「わたしの研究」は、「理科の本だな」を掲載して、各学年に応じて児童が図書資料を活用して学習を進められるようになっている。</li> <li>・第6学年の「電気とわたしたちの暮らし」では、プログラミング学習が盛り込まれ、人感センサーを用いたものづくりをするなど、電気の利用を発展させた学習が設定されている。</li> </ul>	

種目名 理 科	発行者名	大日本図書株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題」の答えは、3・4年生では「わかったこと」、5・6年生では「結論」として記述されている。その後に、結論を補充する形で説明が記述されている。</li> <li>・安全に配慮が必要な場面には、「注意」のマークとともに説明文を赤字で示している。</li> <li>・器具の使い方について、巻末の「資料」にまとめられており、すぐに確認できるようになっている。</li> <li>・観察記録や実験結果等を絵と文章で表したり、表にまとめたりする例が多数示されており、児童が得た情報をわかりやすく整理できるよう配慮されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では、見開きで写真やイラストが掲載されており、気づいたことを話し合う場面を設定することで「問題を見いだす力」が育成されるよう工夫されている。</li> <li>・問題、予想、計画、観察、実験、結果、考察、結論等の問題解決の活動に基づいた構成となっており、児童のイラストを用いて、それぞれの活動におけるポイントが示されている。</li> <li>・考察の場面では、観察、実験の結果から言えることを話し合う活動が必ず設定されており、話し合いを通して「より妥当な考えをつくりだす力」を育てられるよう工夫されている。</li> <li>・巻頭に「話し合いのしかた」という話し合いをする際の留意点を提示し、他の児童との対話がスムーズにできるように配慮されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育や観察を行う活動では、「環境」マークを用いて、生物愛護や生命尊重に関する記述があり、生き物を大切にしようとする態度を育む工夫がされている。</li> <li>・「深めよう」では、考察後の探究的な課題が与えられ、発展的に問題解決を図ることのできる内容が掲載されている。</li> <li>・「りかのたまてばこ」、「サイエンスワールド」などのコラムには、各単元に関する資料として、日常生活の身近な現象や生き物の生態に関する発展的な内容が掲載され、科学的なものの見方や考え方を広げる工夫がされている。</li> <li>・自由研究の進め方を解説したページはどの学年も掲載され、巻末の「図書館の本で調べよう」では、図書館資料の紹介や図書館利用を促す内容が掲載されている。</li> <li>・「私たちの生活と電気」では、プログラミング学習が盛り込まれ、人感センサーによる発光ダイオードの点灯が扱われている。</li> </ul>	

種目名 理 科	発行者名	学校図書株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかったこと」は、「問題」と正対した形式で簡潔に表現されており、その後には、新たな知識や解説を加えて示している。</li> <li>・気をつけることは「注意」として示され、安全に配慮して観察や実験が行えるようになっている。</li> <li>・器具の使用方法は、観察や実験のページに簡潔に示されるとともに、巻末にもまとめられており、正しく器具が使えるよう配慮されている。</li> <li>・器具の使用方法については、二次元コードを読み取り、動画でも確認できるようになっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の冒頭に、その単元で特につけたい力を3つに絞って示す工夫がされており、問題解決の過程のどの部分に力点を置いて学習活動を進めていくとよいか分かるように構成されている。</li> <li>・問題を見いだす場面では、話し合う活動が多く設定されており、話し合いを通して児童が問題を自分自身のものとして捉えられるよう配慮されている。</li> <li>・問題解決の各場面では、リード文や写真、イラストなどを用いて、児童の考えを引き出すよう工夫されている。</li> <li>・「問題をみつけよう」から「わかったこと」までを矢印でつなぐことで、児童が問題解決の流れを意識できるよう配慮されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しぜんを大切にするために気をつけること」をマークで示し、観察や飼育における注意や育て方などを、生物愛護や生命尊重の観点から促している。</li> <li>・「作ってみよう」、「やってみよう」、「調べてみよう」、「考えよう」では、興味の沸く課題が与えられており、日常生活で体験することを生かして、科学的なものの見方や考え方を広げる工夫がされている。</li> <li>・「資料」には、「防災」、「くらしに生きる」、「文化や歴史」等、生活に役立つ情報や知識が多く掲載されている。また、高学年の内容は、「仕事に生きる」のマークで、科学をキャリア教育に関連させて紹介している。</li> <li>・自由研究を解説した「わたしの自由研究」では、各学年に応じた調べ方や図書資料の紹介など、見開き2ページに簡潔にまとめられている。巻末には、図書分類表等、図書館の活用方法が調べ方の例として詳しく紹介されている。</li> <li>・「電気と私たちの生活」では、プログラミング学習が盛り込まれ、プログラムの指示によってLEDの光り方を考える学習を扱っている。</li> </ul>	

種目名	理 科	発行者名	教育出版株式会社
観点	選 定 の た め の 参 考		
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題」に対してわかったことを「結論」として記述しており、「結論」の後には、新たな知識や解説を加えて示している。その中で、重要語句については、太字で強調した上、マーカー処理して目立つようになっている。</li> <li>・特に安全に気をつける場面では、「危険」マークとともに禁止事項や注意することを文章で示している。</li> <li>・裏表紙に「安全の手引き」が示され、教科書を開かなくてもすぐに確認できるようになっている。</li> <li>・器具の使用方法は、観察や実験のページに簡潔に示されるとともに、巻末にもまとめられており、正しく器具が使えるよう配慮されている。</li> <li>・「予想しよう・計画しよう」で予想や計画をノートに記入する例が示されていたり、結果をノートの右側に記入する例が示されていたりするなど、見やすくわかりやすいノートのとり方に配慮されている。</li> </ul>		
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見つけよう」から「結論」まで、一本の線につながっており、問題解決の流れがわかるように配慮されている。</li> <li>・「見つけよう」、「予想しよう」、「計画しよう」、「結果から考えよう」の項目では、児童同士のやり取りがイラストと吹き出しで示されており、学習活動の内容が深められるように工夫されている。</li> <li>・巻頭のページでは、自分の考えを言葉で表現できるように、各学年に応じた表現方法の例が示されており、意見や考えを交流したり、自分の考えを述べ合ったりする学習活動に役立てられるように配慮されている。</li> <li>・児童が活動して自ら気づいたことを伝え合ったり、得られた結果をもとに考えを発表し合ったりする場面を取り上げ、対話的に学習を進められるように工夫されている。</li> </ul>		
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や飼育の仕方において、生物愛護や生命尊重への態度を育むための記述が「地球となかよし」というマークで示されている。</li> <li>・「学びを広げよう」では、観察、実験の結果や考察をした後の発展的な問題解決が設定されており、学びを生かして説明したり、考えを深めたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>・「チャレンジ」、「科学のまど」、「資料」等のコラムの内容を通して、中学校で習う内容も含めながら科学的な見方や考え方を広げるとともに、日常生活で起こる身近な現象に触れ、科学への関心を高める内容が各単元で設定されている。</li> <li>・全学年に「わたしの研究」という自由研究の進め方について調べる方法や科学館の活用等、詳しく掲載されている。</li> <li>・プログラミング学習は「チャレンジ」の中で簡単に触れている。</li> </ul>		

種目名 理 科	発行者名	一般社団法人信州教育出版社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の終わりに、観察、実験の結果の整理や、考察の一例として「まとめよう」のページがあり、一人ひとりの児童が自分の学習を振り返ることができるように配慮されている。</li> <li>・安全保持にかかわることについてはオレンジ色で「注意」として示され、危険防止が図れるようになっている。</li> <li>・器具の操作方法については、観察や実験のページに記述されている。</li> <li>・結果の例示は絵や文、表等で表されており、そのほとんどは、児童がノートに書き記すように記述され、実際に児童が結果を記録するときに参考となるよう配慮されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入ページでは、既習事項や生活経験を想起させる文章と、写真やイラストを用いて、児童が問題を見いだせるよう配慮されている。</li> <li>・導入ページに「？」マークを表示し「話し合い活動」「体験活動」が設定されている単元がある。</li> <li>・5、6年生のいくつかの単元では、「考えてみよう」というマークを示し、互いの予想や考えを出し合って練り合う場面が設定されている。</li> <li>・問題解決の過程において、教師と児童の会話のやり取りがイラストと吹き出しを使って示されており、学習活動の内容が深められるように配慮されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ズッキーニの植え方やメダカの飼育方法等、栽培や飼育に関する具体的な例が豊富に掲載され、育ててみたいという関心を高めるとともに、生物を愛護しようとする態度が育まれることに留意されている。</li> <li>・「やってみよう」のコラムでは、追加実験や観察、ものづくり等、学習内容を発展させて取り組み、探究心を高める工夫がされている。</li> <li>・「しりょう」では、中学校で学習する内容や、日常生活で起こる現象等が知識を補充する形で紹介されている。また、科学者の言葉や研究成果も掲載されている。</li> <li>・「やってみよう自由研究」では、学年に応じた研究テーマやまとめ方などが掲載されている。</li> <li>・「電気の利用」では、プログラミング学習が盛り込まれ、人感センサーで動く照明器具を扱っている。</li> </ul>	

種目名 理 科	発行者名	株式会社新興出版社啓林館
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まとめ」の内容は、「問題」の答えとなる表現になっている。また、「まとめ」と「問題」の色が同じになっており、対応していることがわかりやすくなっている。</li> <li>・各単元末に学習した大切なことをまとめた「まとめノート」の例示があり、児童がまとめる際の見本となっている。</li> <li>・安全のために特に注意することは「注意」として示されている。さらに、数種類の「安全マーク」（「けが」「やけど」等の文字を入れたマーク）を示すことで、何に注意すべきか、一目でわかるようになっている。</li> <li>・器具の操作方法は観察や実験のページに示され、巻末には簡潔にまとめられている。また、二次元コードを読み取ると動画で確認することもできる。</li> <li>・3年生の観察カードの例示では、「大きさ」、「形」、「色」の項目が統一されており、比較しやすい工夫がされている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題」の前に「問題をつかもう」を設定することで、子どもたち自身が考え、話し合っ「問題」を見いだす過程が具体的に示されている。</li> <li>・「結果から考えよう」では、結果をもとに、考察していく様子を児童や教師が対話するイラストを用いて具体的に示されている。</li> <li>・問題解決の流れが一目でわかるように、問題解決の過程を矢印でつなぐ工夫がされている。</li> <li>・各単元の最初のページには、既習事項や生活経験を想起させたり、学習のめあてを明確に示したりするなど、児童が問題をつかむことができるような構成となっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培や飼育方法については、動画と音声で詳しく説明を聞くことができるように、二次元コードが数か所掲載されており、ICTを活用して、栽培や飼育への興味・関心が高まるよう工夫されている。</li> <li>・観察や飼育する活動において、生物愛護や生命尊重の態度を育むための記述が「しぜんを大切に」というマークで示されている。</li> <li>・「理科の広場」、「つなげよう」では、日常生活における身近な事物や現象を取り上げ、中学校で扱う内容にも触れながら、科学的なものの見方や考え方を広げる工夫がされている。</li> <li>・自由研究のページでは、全学年見開き2ページに簡潔にまとめており、「自由研究に役立つリンク集」にリンクできる二次元コードを掲載している。</li> <li>・「発電と電気の利用」では、プログラミング学習として人感センサーと明るさセンサーを扱い、電球を動かす学習を扱っている。</li> </ul>	